

かわねほんちょう 議会だより

第42号

平成28年5月発行

発行 / 川根本町議会
編集 / 議会広報委員会



～2016年・春～（徳山の桜とSL）

* も く じ *

- ◎平成28年度町の予算が決まりました 2～3
 - 予算特別委員会・第1常任委員会報告 4～6
 - 議会で決まったこと（3月定例会） 7
- ◎一般質問 ～5人の議員が町政を問う～ 8～12
 - 木と向き合う（指導林家 森下一淑） 13
 - 議会活動報告（先進地視察）
 - 何もないけど何かある 徳島県美波町伊座利地区
 - 定住は私に任せて 徳島県美波町
 - 葉っぱビジネスで町おこし 徳島県上勝町
 - サテライトオフィスで自分らしい暮らし 徳島県神山町
- 14～15
- 議会日誌・編集後記・6月議会日程 16

23日間に及ぶ3月定例議会終了
提案された38議案 全て原案通り可決

平成28年3月
定例会
3月2日~24日

平成28年度一般会計予算
前年度比3.8% (2億4400万円) の減

62億1700万円

自然災害等に備えた防災対策、保健・医療・福祉・教育の充実による

「安心して住めるまちづくり」

農林業の振興、歴史的資産、豊かな自然資源を活かした施策の展開による

「農林業が元気で、豊かな経験・自然資源を生かしたまちづくり」

地域間交流の促進、人づくり・魅力づくり・活力づくり活動への支援による

「交流とふれあいのまちづくり」

を目指した予算の編成となっています。

今定例会では、4月1日スタートの静岡地域消防救急広域化（静岡市・島田市・牧之原市・吉田町・川根本町）に伴う規約の廃止・制定を始め、50年ぶりとなる行政不服審査法改正に伴う条例の制定及び関係条例の改正、他14件の条例改正や、27年度補正予算5件、28年度予算7件、工事請負契約の変更2件、財産の取得、計画策定2件など、全38件の議案が提出され、原案通り可決されました。5日間に渡る予算特別委員会や、最終日の5人の議員による一般質問では、人口減少対策や高度情報基盤整備事業の費用対効果・利活用、豊かな地域資源等を生かしたまちづくりなどについて、町長の思い、考え、今後の対応等について質問を行いました。



塩郷の吊橋（恋金橋）



徳山の枝垂れ桜並木



広域消防運用開始式が行われた
静岡市消防局（司令センター）

注目!

- ◎高校卒業までの子どもの医療費完全無料は県内2町だけ
- ◎情報基盤の利活用で若者呼び込み・IT企業誘致にチャレンジ!
- ◎若者交流センター奥流(おうる)で地域活性化

〈主要事業の内訳〉

子育て支援事業

【未来を担う子どもたちが大きな夢をもち、生き生き育つ町づくり】

- ◎放課後子ども総合プラン推進事業 16,622千円(4,051増)
 - ・放課後子ども教室の運営(南部・中央・第一・本小)
 - ・放課後児童クラブ運営(6年生まで、シルバー人材センター委託を、かね来風へ変更)
- ◎医療費助成事業 21,636千円(同額)
 - ・こども医療費助成 高校卒業相当まで入院・通院医療費助成ほか



放課後児童クラブ

地域活性化対策

【地域資源(人・自然・歴史・文化等)を生かし人口減少の克服】

- ◎情報政策の推進 54,921千円(376増) 高度情報基盤の運用と利活用
- ◎エコツーリズム推進事業 6,325千円(1,927増) 多彩な地域資源を活かした交流人口の拡大
- ◎ユネスコエコパーク推進事業 7,942千円(△1,976) 自然と文化を守り、共生し、積極的な活動を進める



エコツーリズム事業カヌー活用

地域間交流の促進

【当町の素晴らしさを町内外に発信し、国内外の交流促進に努める】

- ◎若者交流センター奥流(おうる)関連事業 45,000千円 ITキャンプ
- ◎中学生海外英語研修 8,100千円 ◎地域起こし協力隊 6,622千円
- ◎大井川流域観光 10,000千円 トーマス号を生かした誘客・交流
- ◎町営観光施設等誘客拡大 1,650千円 キャンプ場利用者への温泉誘客
- ◎(仮称) まるごと川根本町遊湯得(ゆうゆう)事業 8,500千円



小学5年生県外体験 名刺交換

移住・定住促進事業

【移住・定住を加速させ、活力の向上と安心・快適な地域社会をつくる】

- ◎定住促進住宅建設補助 12,000千円 新築5/100、限度額300千円
- ◎空き家改修補助 3,000千円 1/2、限度額500千円
(町内に在学する子がいる場合は限度額1,000千円)
- ◎住宅リフォーム補助 15,000千円 20%以内、上限200千円
- ◎起業及び事業継続チャレンジ補助 5,100千円
新規起業者(改修費の1/2、上限1,000千円、家賃補助1/2以内、月額上限25千円)。既存事業者(改修費の1/3以内、上限500千円)



若者の田舎体験ツアー

- ※その他、◎農林業センター事務所・車庫改築55,186千円、ドラム式萎凋機導入3,618千円
- ◎茶茗館運営費(町直営)35,393千円(13,760千円増)
- ◎音戯の郷運営費73,851千円(13,413千円増)

況を報告します

審査日 3月3日～9日



3月定例会初日(2日)に予算特別委員会(委員長園田靖邦・副委員長芹澤廣行)付託とした

平成28年度川根本町予算は3日～9日まで担当課別に審査を行いました。9日には現地調査を実施、その後採決を行い、5件の予算すべてを原案通り可決しました。主な内容を抜粋して報告します。

一般会計

総務課

問 カーブミラー設置対応について。

答 約80%の対応、地区のバランス、現場をみて確認している。

問 消防広域化になり北分遺所の体制は。

答 広域化されるが基本的な事は変わらない。

企画課

問 ふるさと納税について。



答 SLの乗車券、宿泊券なども考え充実する。

問 空き家改修事業補助金について。

答 登録していなければ改修できないので広く所有者に周知する。

問 Wi-Fi設備について。

答 昨年度、本年度の整備をあわせ10箇所予定、町内施設はパスワードで無料。

税務課

問 歳入の関係で長島ダム交付金及び納付金について。

答 平成28年度4億8892万7千円、前年対比△1千220万1千円。

福祉課

問 各保育園の定員数

答 三ツ星70人、桜40人、聖母30人、さゆり幼稚園20人。

問 放課後児童クラブ業務委託料は。

答 シルバー人材センターからかわね来風に移行、事務員経費の増

生活健康課

問 コンビニサービス提供使用料について。

答 住民票、印鑑証明戸籍関係の対応を予定平成29年1月から3か月分の予算計上。

問 地域医療推進費は。

答 保守点検は医師負担で、希望する機器を町が購入している。

問 し尿処理費は。

答 島田市が脱退することも決まり施設が健全運営できるように必要があれば予算化していく。

産業課

問 荒廃農地調査費は。

答 農業委員が担当している地区ごとに調査。機構集積支援員によりフォローアップする。

問 25万4千円、全体で706万2千円である。

問 地域商工活性化事業業費補助金について。

答 10%上乘せし35%とする。商工会の活性化に期待したい。

問 ユネスコエコパーク推進費について。

答 エコツーリズムネットワークに委託する予算。

問 地籍調査事業の減額について。

答 県法務局の送り込み作業に充て、滞っている作業の調整をはかる。

問 道路維持費、保安林解除申請について。

答 町道に保安林指定がある箇所の申請。

問 町営住宅管理費、今後の改修予定は。

答 住宅長寿命化計画に基づき計画されているが住宅状況を再確認し検討する。

問 大井川ダム流域連携協議会負担金は。

答 島田市地域づくり課長が会長で7市2町の構成、当町分担金3



増え続ける耕作放棄地

建設課

問 茶茗館イベント委託料に関する方向性は。

答 プロジェクトチームに委ねるが川根茶発信機能を第一に考える。

問 桑野山貯木場における製材所整備は。

答 この町に適応したものを関係者と協議。

問 大井川ダム流域連携協議会負担金は。

答 島田市地域づくり課長が会長で7市2町の構成、当町分担金3

問 町営住宅管理費、今後の改修予定は。

答 住宅長寿命化計画に基づき計画されているが住宅状況を再確認し検討する。

予算特別委員会の審査状

教育総務課

問 交流センター施設運営について。

答 舎監業務は、セーフティガード、給食業務は丹田商店にお願いする。

問 中学生海外研修は、本年と同じカナダであるが平成29年度から高校生も考えたい。

生涯学習課

問 小学5年生県外体験学習について。

答 子供達の行事も多く10月に変更した。静岡空港の活用も考え、北海道札幌市周辺とした。

問 文化会館運営費は、周知方法として広報誌掲載、かわねフォンでのお知らせ動画等今後も地道な集客を行う。

問 カヌーの町の再興について。

答 競技カヌーについては問題も多いが後継者の育成は必要。

特別会計

国民健康保険事業会計

問 国保広域化について分かる範囲で教えてほしい。

答 28年度に県レベル調整会議を持ち、保険料の考え方を県段階で協議する。県を3地区に分けて進める。現時点では国からの詳細は示されていない。

後期高齢者医療事業

要望 平成28年度29年度と所得割が上るので対象者数や金額の詳細資料を配布されたい。

介護保険事業

問 低所得者等の高額介護サービスの対象となる個人負担はいくらか。

答 現役並み所得世帯で上限月額4万4千円、一般世帯3万7千円、住民税非課税世帯2万4600円

簡易水道事業



問 公課費で消費税について水道料金に占める消費税の額はいくらか。

答 水道料金収入、予算額1億861万3千円の内804万5千円が工事費の減は。

問 27年度に大きな工事が終了したので、28年度は各施設の維持修繕で1千787万8千円計上した。

いやしりの里診療所事業

問 医薬材料費の増額理由は。

答 主な増額はインフルエンザ薬代の増額

まとめ

連日、各課課長、職員の説明を受け委員から質疑、要望、意見等が出され町長はじめ担当課が回答、施策に対する考え方、方針を示していただいた事を、いくつか抜粋して記載します。又、審査終了後、現地調査として青部土捨て場の関係で長島ダム工事事務所長の説明、土捨て場予定地を現地調査しました。

予算特別委員会

委員長 藪田靖邦 副委員長 芹澤廣行

現地視察

予算特別委員会審査最終日の9日午後1時から、予算に関する現地視察を行いました。

1. 長島ダム工事事務所では、貯砂ダムからの堆積土砂の搬出場所の状況や搬出計画について説明を聞きました。

2. 接岨峡大橋付近では、堆積土砂の搬出用道路の状況を確認しました。

3. 青部土捨て場予定地（28年度以降埋立予定事業）



青部土捨て場予定地視察

付託議案2件の 常任委員会審査報告

審査日 平成28年3月10日(木)

第一常任委員会審査報告

第一常任委員会に付託された事件は、議案第5号「川根本町行政不服審査会条例の制定について」および議案第18号「第2次川根本町総合計画基本構想の策定について」の2件です。

担当課長より説明の後、質疑応答を行いました。

議案第5号審査内容

改正に伴い不服申し立てを諮問する第三者機関として行政不服審査会を設置するための組織、運営などを規定する条例である。

質疑応答の主な内容を抜粋して記載します。

問 諮問に応じ審査会が行う調査容認に係る手続き及び公文書は公開しないとあるがその意味は。

答 行政不服審査会に係る審議内容は非公開です。審査中の案件は、本人も聴け、意見も言え幅が広がったという捉え方である。

議案第18号「第2次川根本町総合計画基本構

想の策定について」

審査内容 平成18年度に策定された第1次総合計画が28年度で計画満了となるための基本構想である。

質疑応答の主な内容を抜粋して記載します。

問 先月の未来フォーラムの中で町長の人材育成において「町外からの呼び込みも考えなくては」と言ったが、この計画のどこが主たるものか。

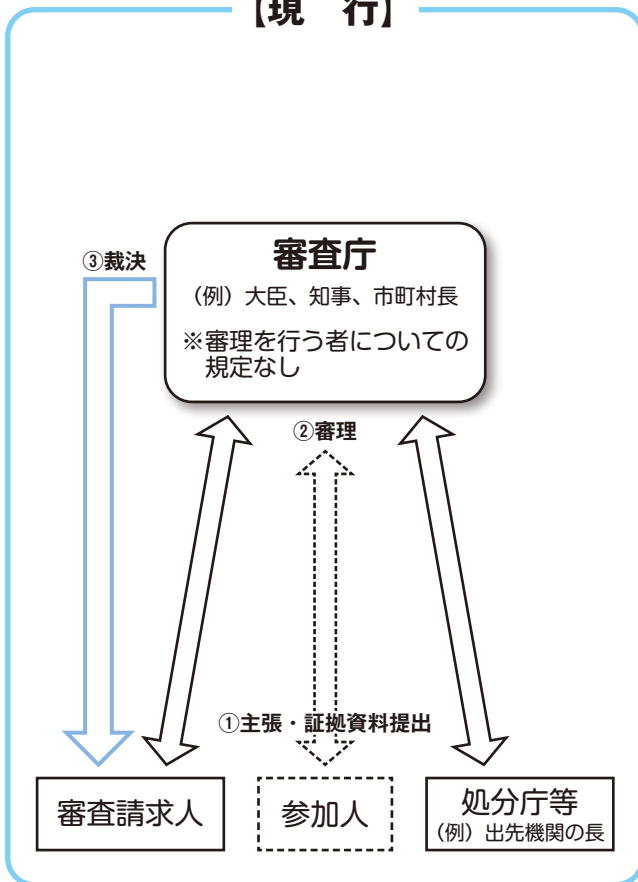
答 ダイレクトな表現はないが外からの人材の多様、人づくりに取り組む姿勢はうたっていると思う。

2議案とも討論はなく起立全員により可決

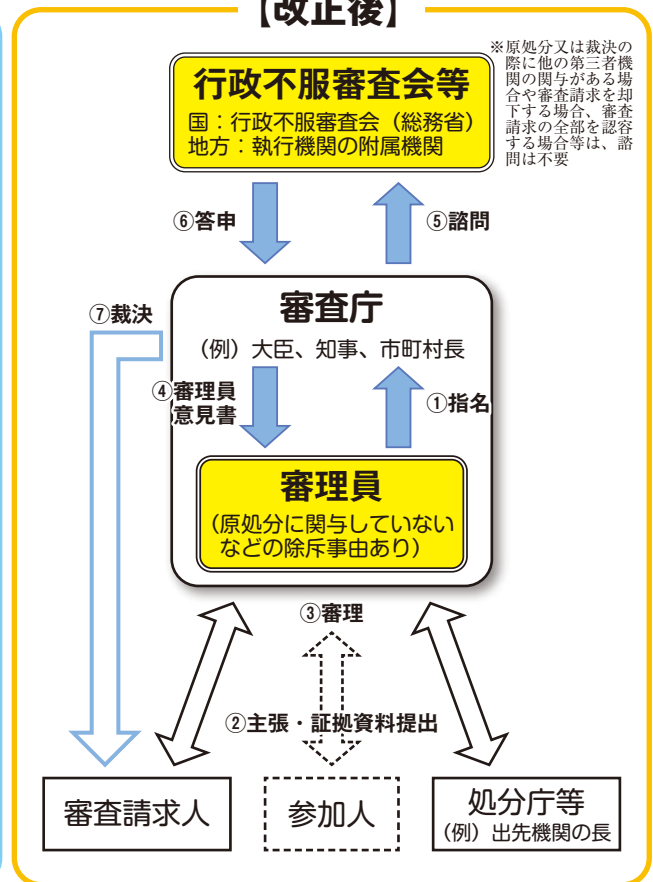
(第一常任委員会)
委員長 園田靖邦



【現 行】



【改正後】



3月議会 決まったこと

条例関係

- 行政不服審査法の施行に伴う条例制定等2件
- 条例の一部改正等13件

第二次総合計画

- 基本構想策定（平成29～38年）
全員賛成で可決

補正予算

- 課の設置条例の改正（情報政策課新設）
賛成多数で可決
- 一般会計（七号）
3億3385万5千円減額して予算総額約70億2300万円に
全員賛成で可決

財産の取得

- 青部地区土地購入59筆 1万3888㎡
- 2939万8千円
全員賛成で可決

工事請負契約の変更

- 高度情報基盤整備事業付帯工事（京セラコミュニケーションシステム（株））
約7122万5千円増額して2億1080万円に
全員賛成で可決

平成28年度予算

- 一般会計予算
62億1700万円
賛成多数で可決
- 特別会計予算
○国民健康保険事業
10億1320万円
全員賛成で可決

発議

- 議会の委員会条例の一部改正
第1常任委員会の所管に情報政策課を加える
全員賛成で可決

補正予算

- 一般会計（八号）
3128万8千円追加して予算総額約70億5430万円
全員賛成で可決

反対!!

鈴木議員

大半は町民に必要な不可欠・安心安全の予算で職員の努力に感謝。一方かわねフォン1台月800円、年2千800万円超の利用料負担金はIRU契約の相殺とすべき。合併10年後から地方交付税が減らされ、町民の命と暮らしを守る財源を圧迫する。マイナンバー関連経費も個人の情報漏洩やプライバシー侵害の恐れなど反対の声が強い。若者や企業を呼び込み、観光・交流人口を増すためにもまずは町民が望む子育て・若者支援の拡充が重要なのに消極的。

反対!!

鈴木議員

75才以上の高齢者を他の全ての医療保険から外して県単位で囲い込み、わずかな年金がたよりの高齢者に際限ない値上げと我慢を押し付ける親不孝制度。28年度も県内で一番医療費が低い当町の高齢者に、1人平均千円を超す値上げを押し付け、町や高齢者の努力も認めない欠陥制度による会計。

反対!!

鈴木議員

情報政策室を少人数の課にしても、元々町民の合意で始めた訳ではないかわねフォンへの苦情や要望がますます届かなくなる。今後多大な経費が予測される情報基盤の利活用は、町民の理解と協力をどれだけ得られるかがカギ。

28年度 一般会計予算

賛成!!

中澤議員

平成28年度予算は、「安心して住めるまちづくり」、「農林業が元気で、豊かな経験・自然を生かしたまちづくり」、「交流とふれあいの町づくりを」目指して作成されたものであり、住民の誰もが安心・安全に自分らしくこの町で暮らしていくために欠かせない事業を行うため必要な予算であると考え、賛成とする。

28年度 後期高齢者医療事業 特別会計予算

賛成!!

中澤議員

75歳以上の高齢者が安心して医療機関での医療の提供を受けるため欠かせないものであり、安定した医療制度の維持のため必要なものであると認め賛成とする。

賛成!!

中澤議員

川根本町課設置条例の一部を改正する条例

平成27年度に完成した高度情報基盤事業の本格的な運用及び利活用を円滑かつ迅速に推進していくために必要な新たな課の設置（組織の充実・強化）であり、必要と認め賛成とする。



蘭田 靖邦 議員

○次年度予算から思う町の将来について
○重点分野への人材集中について
〈人づくりと機構改革の重要性〉

問

質問 的を絞った施策の展開、高度情報基盤整備事業からのモデル地域の必要性、そのための補助制度の活用。
町長 県内トップクラスの通信網が整った民間事業者による高齢者見守りサービス実証実験も新聞報道され認識され始めている。ICTを利活用し、町の課題解決するような補助制度を積極的に利用する。重要な事は、しっかりとした目的を設定する事で整備した通信環境を十分に生かす事。
質問 普通交付税の減額から財源確保の重要性について。
町長 林野庁、環境省の関係から森林交付税を全国展開している組織がある。その様な制度を今、検討している。

質問 次世代の子供達への更なる補助率アップと無料化できるものの積算は。
教育総務課長 無料化とか軽減できる可能性はあるものは学校給食費があげられる。参考までに積算は平成27年度において軽減した場合、概算で1688万円、全額町負担、第2子以降を全て無料、約567万円、第2子半額にして第3子以降を無料、約330万円。
福祉課長 保育料については、国の制度に合わせ年収360万円未満の世帯について保育料負担軽減として多子計算に係る年齢制限を撤廃し、当町においては第2子を半額、第3子以降の無償化を完全実施した場合は約1000万円の一般財源が必要。

質問 戦略室構想と方向性を決定していく事業について。
企画課長 毎年度、総合戦略の進捗状況を検証して改善が必要な場合は的確に対処する。
質問 重点分野への人材集中について。新設する課、情報政策課だけの対応が進められるものではないと思うが。
町長 ICTを利活用しない事には前に進まない時代背景。課を設置して横断的な対応をする。
質問 町長直属の機関の位置づけにしたらどうか。
副町長 町長の意思がより明確に反映されるような執行部局により近い位置づけにする。



川根本町の将来を担う子たち

質問 短期間で効果を上げる人材集中について。
町長 当然ながら人材を集中する。
質問 地方創生にかかる総合戦略、合併特例債を使った事業がまだあるのか。
総務課長 新町建設計画に掲載された事業を進めなければならない残額として21億6000万円程ある。
質問 機構改革について部局の統廃合によるプロジェクトチームの結成は考えているか。
町長 臨機応変に対応する。今の時代に合った組織としてやるべき。
質問 以上の事を踏まえ、要望として総務課の行政改革室と企画課の、まちづくり室を統合したらどうか。
町長 もう一つ言わせていただくと、財政も絡めて企画が動きやすいのではないか。早い段階で検討し来年度の機構改革に間に合わせたいと思う。

答

- 交付税制度の見直しを注視しつつ事業を実施するための財源の確保に努力する
- 職員一人一人の能力を最大限活用、より柔軟に対応できる組織体制、新たな行政サービスの確立



芹澤 廣行 議員

問

○青部地区の町が取得した土地利用について
○南アルプス南部地区活性化推進協議会について



青部小学校

質問 青部バイパストンネル工事に伴ない現存している旧青部小学校敷地と、青部地区住民の方から購入取得した土地の利活用について伺う。

町長 旧青部小学校の敷地3595㎡、町が購入取得できた土地面積1万3888㎡、合計約1万7500㎡弱となっております。埋め立て後の土地の利活用については、今後検討する会を設けながら協議していく考えです。

質問 旧青部小学校の建物の活用についてどのような考えを持っているか伺う。

町長 協議会設立後、旧小学校の建物をどうするか協議していく考えですが、地元青部地区の皆様との協議の流れから、基本的には残さない、残せないの方向でお知らせはしてあると考えています。現実的な話になりますと、現在の建物を移築しようとした場合、多額の費用が必要な上、利用のためには耐震性を確保する必要もあるのが現状です。

質問 現在通行止めとなっている青部の吊り橋について、今後町としてどのような対処をしていくのか伺う。

町長 河川管理者である静岡県からの指導により、吊り橋の所有者である中部電力株式会社は、吊り橋撤去の準備のため通行止めとして現在に至っています。しかし、撤去根拠となる違法な河川占用につ



青部吊り橋

きましては改善をすれば問題がなくなることから、吊り橋の撤去については白紙撤回をされています。県は吊り橋を残す前提で、中部電力、本町と数回協議を行っています。

しかし、吊り橋をどうするかについては結論が出ていないのが現状です。町としてはどの様な結果になるか見守っている状況です。残すためには修繕費用が必要となりますので、難しい問題であるというふうに考えています。

質問 南アルプス南部地区活性化推進協議会の今後の活動について伺う。

町長 本町、早川町、静岡市の連携を強化することにより、更なる連携交流、自然保護、人と人の繋がり活性化をはかることにあります。



青部バイパストンネル工事土捨場

答

- 埋め立てた後の土地の利活用については検討する会を設けて協議していく
- 静岡市、早川町、川根本町の3自治体で構成している



中澤 莊也 議員

○茶茗館の管理・運営方針は

○豊かな自然環境、歴史・文化を生かしたまちづくりとは

問

質問 茶茗館の管理・運営方針は ①町が直接管理・運営する理由は②お茶に特化した施設としていくという運営方針の転換は③川根茶の情報発信基地としての設置目的の実現は

町長 ①川根本町のお茶をどのようにPRするかということが重要で、これが行政の責任だと感じ、町が直接管理・運営を行うこととした。②銘茶川根茶をしつかり普及啓発していく施設であると町民も来訪者も意識して立ち寄っていただけ施設が町に必要と考えた。③茶茗館に川根茶の流通販売の情報を集め、お客様の希望に即した案内サービスができるようにしていきたい。

質問 豊かな自然環境、歴史・文化を生かしたまちづくり①「南アルプスエコパーク」への登録等をどのようにまちづくり

町長 ①川根本町まちひと、しごと創生総合戦略の中で推進していきたい。誇りや意識の醸成といった情緒的な部分も大切だが、あわせて子育て・医療・教育などの環境、あるいは



本年度から町直営となるフォーレなかわね茶茗館

ちづくり

多様な就労・定住環境の満足度を高めていくことが必要である。登録されたからといってすぐに何か変化するというものではない。今までの文化、生活、生活を継承できる仕組みを官民でつくっていくことが最も重要なものと感じている。啓発事業としては、外に向けてはホームページ、パンフレット、のぼり等を掲出し、町民には地域資源解説本を作成して配付していく。また、出前講座を実施して町の素晴らしい資源を解説していただく機会を作りたい。新たな取り組みとして、大井川鐵道沿線に駅を起点に、地域に入り込んでいくコースを何か所か設定する調査を行うとともに、地域の方々が観光客を案内できるように仕組みを関係者と協議していきたい。③来



日本一短いトンネル (保安)

年度町内に2か所ほど南アルプスエコパークと日本で最も美しい村連合への加盟を同時にアピールするある程度大きな看板を設置する予定である。そのほか、地域ガイド養成研修、啓発出前講座も実施する予定である。また、推進資源調査として、次年度は大札山、山犬段から沢口山へのトレッキング、登山に対応できるシャトルバスの可能性を調査したい。③景観保護条例については、景観計画策定を進める中で方向性を考えていきたい。

○川根茶のPRIは、町が責任を持って行うべき

川根茶のインフォメーション機能の強化が重要

○南アルプス・川根本町の資源をわかりやすく解説した本を作成し、全戸に配付 出前講座も実施

答



野口 直次 議員

○28年度予算の実施に当たり考えを伺う
 27年度出生数低下、南部地区観光、通勤等
 ○第2次総合計画の思いを伺う
 アンケート調査結果、教育、子育て等

問

質問 平成28年度予算を実施するに当たり行政の考えを伺う。

町長 平成28年度予算は、南部地区（中川根）の観光のこれからの見通しを伺う。

町長 大鐵沿線周遊コース構築、各駅を基点に地域資源を巡る観光コースを設定する考えで模索する。徳山の桜は商工会や地域で祭りを盛り上げて賑わいを創出しているが、観光的に言えば、もっともっと桜を植栽して徳山地域が桜の名所というブランドが出来上がり、地域の人々の思いをひとつにして植栽活動を率先して行う運動が起されれば、町としては苗木などを、少なくとも支援する。

質問 町外からの通勤者の町内定住を促進させる取り組みについて伺う。

町長 子育て世代の居住空間の充実を図るための助成制度の拡充、配偶者等が暮らしやすい環境整備、総合的にまちの魅力を向上し家族全員でこの町に住みたいと思っていただけの町づくりを進める。

質問 27年度出生率低下をどの様に捉え、教育や子育て支援関係の予算に反映させるか伺う。

町長 27年度出生数は16人である。大変厳しい状況であると認識し、子育てしやすい町づくりを目指す。事業としては本格的に実施をしており、学校教育の充実、若者交流センターを活用し町の教育の魅力を図る。

質問 創生戦略を含め、第2次総合計画の思いと計画策定アンケートの採用について伺う。

町長 アンケート調査結果については、翌年

度の基本計画に策定された際に資料として記載することを予定している。

質問 各分野に町民の積極的な地域参画は。

町長 来年も各学校の支援員として地域の皆様に活躍して頂く。各学校行事の開催には積極的に参加していただき、地域コミュニティの活性化にも学校の役割は大切。RG授業を理解していただくために子育てをしていこうとする若い皆様に誤解のないようにしっかりと伝えていく。介護福祉等もケアラズカフェ等を実施し多くのボランティアに協力していただく中で町民に社会参加を促したい。

質問 町内小中学校の施設を含め老朽化した公共の建物について伺う。

町長 学校校舎は本川根中で約46年経過、最



中央小学校

も新しい中川根中でも約32年が経過している。耐震化率は100%であるが、経年劣化による建物の痛みも目立ち、修繕等が必要な箇所もかなりの数が出てくる可能性が大きい。建設当時の児童・生徒数よりかなり減少している。今後改築等含めた対策が必要な状況。公共施設等についても長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化などを計画的に管理するため、総合管理計画の策定業務を行っていく。

答

- 徳山の桜は観光的に言えば、まだまだ植栽活動必要苗木等を支援する 出産予定数16人
- 全校が築30年以上、児童大幅に減少、今後学校施設を含め公共施設等対策必要に



鈴木多津枝 議員

- 多額な情報基盤事業の費用対効果は
- 28年度予算の若者・子育て支援拡充は
- 町民が乗りやすいよう大鐵の運賃補助を

問

質問 消費税8%以来、かわねフォンの改善を。アベノミクスはますます格差を広げ、庶民の暮らしは収入減と医療・介護負担増、物価高で火の車だ。自公政権は、福島原発事故を教訓とせず原発再稼働を進め、憲法9条も変えて戦争する国を目指すなど、多くの国民の願いと溝を深めている。町政でも、「町の元気がなくなつた。子供は少なく、若者は出て行き、年寄りばかりの町になっていく、この町は大丈夫か」と、不安の声が高まっている。国政は選挙で変えるしかないが、町政は、町長の考え次第で町民を元気に出来る。前向きな答弁を期待する。①町民の合意で始めたとは言えない高度情報通信基盤整備事業の費用対効果と今後計画している利活用で予測される費用は。②聞きにくいと不評の

町長 ①約17億円かかった。利活用では28年度予算にITキャンパスや住民ダイレクター養成で数十万円計上。本格的な利活用はICT利活用検討委員会の報告書に基づき各課で検討して補正予算等に計上する。住民に喜んでもらえれば費用対効果は大きい。②「かわねフォン」は文字放送が主体で不在でも受信情報が確認できる。緊急情報は音声放送するが携帯のメールやテレビ字幕、J-アラートでも確認できる。③かわねフォンは町民への貸与でIRU契約には入っていない。想定外の事態にならない限り町民から利用料金を頂くことはない。現在、通話料無料の電話として利用され嬉しいという声が届いている。鈴木議員は嬉しいという声は聞かないのか。

質問 残念ながら聞かされていない。差し込みを抜いている人や、かわねフォンを入れていない100世帯程への緊急情報をどうするのか。

町長 入れなければ災害時に大変ということをPRし、福祉関係など重要な情報が届かないことがないよう指示する。

質問 28年度予算で①若者の雇用を増やし、結婚・子育てできるまちづくりは。②町民の負担増を避け、町民が元気に活躍できるまちづくりの実現は。

町長 ①企業等と連携して若者が働きやすい新たな仕事や、雇用の場の確保に努める。②この町に適した一点突破として次は何をやるかという中で、給食費や保育料をどうするか考えたい。

質問 大鐵乗車料金の補助創設を。

町長 近日中に、大井川鐵道株式会社により大井川鐵道のあり方に関するアンケート調査が実施されるが、その結果などを踏まえて、どのように支援するか検討したい。



徳山聖母保育園の通風風景

答

- 住民に喜んで頂ける利活用が費用対効果だ
- 企業と連携し若者の新たな雇用の場の確保に努める
- 大鐵のアンケート結果を見て支援方法を検討する

木と向き合う

指導林家 森下一淑



安全確認 チームワークが第一

と背中を押され、推薦をお受けすることになりました。振り返って長年所属している林業研究会では、以前は、いい木を育てる、育林に力を注いでいました

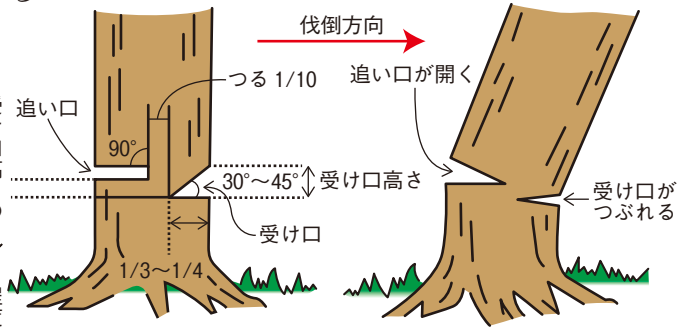


木の駅事業 間伐材の積み込み作業

は、実際に作業されてる方から初心者の方まで様々でしたが、受け口、追い口、ツルといった基本を実技を混ぜた説明に、熱心に耳を傾けて

私は昨年、農林事務所
の林業担当者から指導林家へ推薦のお話をいただきました。それは、農林漁業の振興を目的に各分野で活躍し技術や文化の伝承を期待される農業経営士、青年農業士、指導漁業士、青年漁業士、指導

が、時代の変化に伴ない、自ら木を伐り出す技術の習得へと研修内容が変わっていききました。その中には、数人でチームを組んで行なう作業も多く、意志疎通を欠けば重大な事故に繋がってしまいます。改めてチームワークの大切さも学ぶことができました。これらの体験を活かし、私は数年前から、林業の新規就業者の研修のお手伝いをさせていたでいます。人に説明したり、教えたは苦手な私でしたが真剣に聞いてくれる研修生と向き合うことで教える側も真剣に取り組まなければいけないと考えるようになりました。



た。参加者は、実際に作業されてる方から初心者の方まで様々でしたが、受け口、追い口、ツルといった基本を実技を混ぜた説明に、熱心に耳を傾けて

今、森林や林業が見直されてきています。その中で少しでもお役に立てれば幸いです。

- ◎指導林家 (創設平成17年)
- 模範となる林業経営を行い林業後継者の育成に指導的役割を果たしている者。
- ◆認定要件
- ・地域の模範と認められる林業経営を行っている者
 - ・人格・見識が優れている者
 - ・林業後継者の育成指導に理解があり、積極的に指導活用ができる者
 - ・概ね10年以上の林業経験を有し、将来とも地域林業を先導する中核的な存在となると認められる者
 - ・満45歳以上65歳未満の者

間地の人口減少対策に学ぶ 視察報告

昨年10月28日～30日、12名の町議会議員で徳島県の中山間地へ視察に行ってきました。どの町においても、少子高齢化・過疎化が進む中、行動力あるリーダーのもと、地域資源を活かした移住定住対策で大きな成果を上げています。川根本町の今後の取り組みに大いに参考となり、充実の3日間でした。

NPO法人グリーンバレー（大南理事長）の移住・交流推進事業 ～ 神山町における移住・交流「神山プロジェクト」の取り組み～

- サテライトオフィスの誘致（IT、映像、デザイン等働く場所を選ばない企業の誘致）
神山町では早期の光ファイバー網整備により、新会社設立、本社移転で12社がサテライトオフィスを設置し、30名を新規雇用。3年後までに30名程度の新たな雇用が見込まれる。
- ワークイン・レジデンス（町の将来にとって必要になる働き手や起業者の誘致）
移住希望者と空き家をマッチングさせる方法で「誰でもいいから来てください」ではなくて「ここでパン屋を開業しませんか」「この家をオフィスとして使いませんか」というように、仕事ごとに、来て欲しい人を逆指名する画期的な事業であり、7年間80名が移り住んだ。
- 神山塾（求職者支援訓練による後継人材の育成）
ホームステイをしながら、地域づくりの活動を通じてイベント事業のノウハウやスキルを学ぶ職業訓練の場。6ヶ月間の求職者支援訓練で6期77名が終了。終了生の移住率約50%サテライトオフィス雇用10名。10組のカップルが誕生しています。



『平成20年～26年中に85世帯147人移住』

葉っぱビジネスで町おこし、インターンシップ事業で後継者を！ ～ 上勝町における「彩（いろいろ）事業」の取り組み～

- 「彩（いろいろ）」とは、もみじ、柿、南天、椿の葉っぱや梅、桜、桃の花などを料理のつま物として商品化したものです。当時農協職員の横石知二氏（現・株式会社いろいろ社長）が「彩」と名づけ昭和61年にスタートし、試行錯誤、努力奮闘の末、販売額2億6000万円「つま物」全国シェア70～80%を占め、年収1000万円以上稼ぐおばあちゃんもいます。
- 生産者、農協、市場をネットワークで結び、受発注情報、全国の市況情報を迅速に共有し需要に応じて葉っぱを供給している。
- 彩事業は、生産者・農協・株いろいろの3社が一体となって運営されています。また平成24年から出荷受注業務に、高齢者でも使いやすいシステム構築のタブレットを導入しました。
- インターンシップ事業は、農家の後継者を呼び込むための体験研修です。平成22年事業開始から5年間で500名を超える若者が全国各地から集まり、30名以上が町内に移住・就業しています。



『葉っぱビジネス、インターンシップ事業で高齢者が元気に！』

- 議員が企画運営する5回目の「視察報告員」2両日で30名の方々がお越しくださいました。議員が作成した資料やパワーポイントを使用してそれぞれの町の報告を行った後、視察に関する質疑応答、行政施策等について意見交換を行いました。
- 当日のアンケートとあわせてごく一部ですがご紹介させていただきます。
- ◎ 報告会で興味をもった・参考になった内容（丸数字は多い順）
 - ① IT企業による働きの創造（神山町）
 - ② 移住・交流施策（美波町）
 - ③ 葉っぱ産業の町おこし（上勝町）
 - ③ 伊座利地区の取組み
 - ③ 創造的過疎による地域再生（神山町）
 - ④ インターンシップ事業（上勝町）

2月19日～20日
町内2会場で開催
視察報告会

熱い思いと行動力…とにかく始めろ！ 資源を活かした中山

町議会議員の 徳島県行政

美波町ウェルかめ（移住交流）コーディネイターの活動 ～ サテライトオフィスIN美波の取り組み～

- 平成23年8月より、光ファイバー網を活かした企業誘致に取り組み、平成24年5月に美波町出身のサイファー・テック(株)吉田社長が、サテライトオフィスを開設。現在サテライトオフィス進出企業12社、数社が検討中。地域ぐるみでサテライトオフィスの定着、誘致の拡大に取り組み、美波町の魅力を世界中に情報発信し、地域の活性化に繋げる取り組みをしています。
- ウェルかめ（移住交流）コーディネイター小林陽子さんの活動

新聞販売店経営の世話好きな小林さんは、30年前から個人的に移住の相談を受け、空き家情報の提供や家主との交渉・仲介、移住後の相談相手となり移住者支援の活動をしてきました。平成25年からコーディネイターを委嘱され、移住交流者への相談及び支援、空き家情報の収集及び提供、移住交流支援策の提案、サテライトオフィスの支援等に活躍しています。



小林陽子さん

『サテライトオフィス12社 移住者53名』

「おいでよ海のがっこうへ」 一日漁村体験イベントで留学生募集 ～ 小さな漁村の奇跡の復活、伊座利地区「自立」の取り組み～

- 美波町内に50世帯人口100人の伊座利地区があります。伊座利校が廃校の危機となり、学校存続を陳情するも行政の反応は鈍く「行政が頼れないなら自分たちが」と、公的な補助や支援を受けず、県内外の親子連れを対象に留学生募集に取り組み、70人を超える漁村留学生が転校してきました。移住者を選定し面接で決め、留学生は親も一緒に転入しなくてはなりません。伊座利地区では、行政からの指導等は一切なく、伊座利地区独自で自治活動をしています。

- 全住民参加で伊座り地区「自立」の取り組み

- ・「一日漁村体験留学」は県内外の親子連れが対象で定置網漁、漁船クルージング、磯遊び等を通して留学生を募集。
- ・「海女ちゃん養成講座」は18歳～40歳までの女性が対象。海女の新たな担い手、独身男性との出会いづくりで移住者の募集。
- ・「伊座利カフェ」は県内外から年間15000人が訪れる人気店。その他「配食サービス」「ポイ捨て罰則」等の独自の活動をしている。



『伊座利住民の6割が移住者！』

◎ご意見・ご感想など

- ・どの町も頑張っているという印象を受けました。川根本町では何が欠けているのでしょうか
- ・視察研修も大切だと思うが、そのエネルギーを実行に移すべき時ではないでしょうか。
- ・発表で言われるとおり人づくりが急務であると感じました。勉強になりました。できない理由より、できる方法を考えていきたいと思っています。
- ・地域・行政が一体となつてやらなければならぬと感じました。
- ・上勝町のインターシップ事業、神山町の神山塾の事業は参考になりました。若者や町外者が、この町に来る取り組みが必要だと思いました。
- ・町に対する危機感を、私たちが町の職員も念頭に業務を進めていきたいと思っています。

議 会 日 誌

議員先進地視察報告会

- 2月 2日 平成28年第1回臨時会
 3日 リニア中央新幹線説明会
 14日 生涯学習のつどい
 19日～20日 議員視察研修報告会



サテライトオフィスをわが町にも



第一小学校卒業証書授与式

3月

- 2日 第1回定例会開会（～24日迄）
 3日～9日 予算特別委員会
 17日～20日 町内幼・小・中学校卒業式
 30日 若者交流センター落成式

若者交流センターが三月三十日に落成しました。川根高校に新たに二十四名の留学生が町外より私達町に勉学の場として来て頂けました。高齢化の高い町です。若者の参入で少しは率が下がるでしょう。

◆ 6月定例会の日程 ◆

6月9日	木	9:00～	本会議（定例会・初日）
		本会議終了後	全員協議会
16日	木	9:00～	本会議（定例会・2日目）
		本会議終了後	議会運営委員会
24日	金	9:00～	本会議（定例会・最終日）

- 会議会場は役場本庁3階です。
- 日程は変更することもありますので、詳しくは議会事務局（56-2229）までお問い合わせください。

**議会はどなたでも傍聴できます。
ぜひ傍聴にお出かけください。**



完成した若者交流センターおうる

編集後記

皐月の空の吹き流し、穏やかな初夏の訪れなのに、何かもの言いたいそんな気がする季節感

議会も今は第二回定例会に向け、個々の考え整理の時期

ふと考えた事

行政と議会は町づくりの両輪だと良く言われます。どちらも意地を張ると車軸が同じなら曲りくねった道路を走行すると、回転するタイヤは摩擦でたちまち減ります。

そこで人間の英知が発揮されるのです。自動車の内輪格差を無くす為デフレアシナルギヤの登場です。その役目が誰なのか今、議会の一人一人が考えなくてはならないように思います。ちなみに時代は動いていきます。

今の自動車はそれ以上の装置ドライブシャフトコントロールセンターデフ（ハイスピード走行での内輪スリップを制限する装置）自分一人では内輪外輪格差は防げません。今後の課題は山積です。

T・N

お詫び

議会だより第41号（平成28年2月発行）3ページの公の施設の指定管理者の指定期間の記載に誤りがありました。正しくは、3年間となります。

※「議会だより」は再生紙を使用しています